

会 議 録

会 議 名	八王子市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 子どもにやさしいまちづくり部会 平成28年度 第4回会議	
日 時	平成28年9月12日(火) 午後5時00分～	
場 所	八王子市役所 本庁舎 804会議室	
出席者氏名	委 員	井上仁部会長、中込順子副部会長、荒井容子委員、石田健太郎委員、岡崎理香委員、立石晴美委員、田中伸幸委員(部会長、副部会長、以下五十音順)
	関連所管	なし
	事務局	渡邊児童青少年課長、平塚子どものしあわせ課長、田村課長補佐、井垣主査
欠席者氏名	後藤高浩委員	
議 題	【議事】 1 子どもの意見発表会について ① 9/4 開催子どもの意見発表会についての報告 ② 10/16 の意見交換会について 2 子どもの権利条例について ① 市政100周年記念事業「ビジョンフォーラム」について	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由		
傍聴人の数	なし	
配付資料名	○平成28年度 子ども意見発表会 ○市政100周年記念事業「ビジョンフォーラム」について ○札幌市 子どもの参加ガイドライン ○八王子市NPOマガジン「SUPPORT802」	
会議の内容	別紙のとおり	
会議録署名人	平成29年 1月 19日 石 田 健 太 郎	

【井上部会長】第4回目の会議をはじめます。事務局からの報告事項は、なしとのことですので、議事に入りたいと思います。

議事1 子どもの意見発表会について

【井上部会長】子ども意見発表会に参加された方から当日の様子などについて発表して頂きたいと思います。部会として、子どもたちの意見を私たちも生かさないといけないですし、発表会でどんな課題を感じられたのかを含めて、お話しください。

【立石委員】この間の子ども意見発表会の時に感じたのが、市が実際に行っていることを、子どもたちや、私達があまり知らないということです。自然の中で遊んだり、学んだりできる環境があること自体を、私達が知らないのがもったいないと思いました。八王子は広いから難しいと思いますが、地域の特徴を生かした遊び場が、市内に3か所くらいあればいいなと感じました。

【井上部会長】自治体によっては、公園へのアクセスや、遊具等が掲載されているマップを作成しているのですが、八王子にはありますか。

【平塚子どものしあわせ課長】南西部のニュータウン地区や北部地区など、大きく3つぐらいのエリアで地図を作っていると思います。特に南西部のニュータウン地区のものは、大きく、丁寧に作ってあります。マップは、公園課や、長池公園など、人がいる公園に置いてあると思います。

【事務局】私も調べたのですが、それぞれの公園にはボールで遊べないとか、犬の散歩は禁止であるとかの内規があり、それは置いてあるマップには記載されておりません。子どもたちが、学校などで作成に取り組んでいるマップなどのほうが詳しいと思います。子どもたちの中で、ここはボール遊びしても良いとかの情報は持っているのですが、子どもたちがマップを作ったほうがいいのではないか、と保護者の方々も言っていました。

【井上部会長】子どもの目線で、この公園では、この遊びは出来ないよという市全体でのマップがあると良いと思います。では、次の委員の方の感想をお願いします。

【荒井委員】事前準備での、サポートの大学生が子どもたちに真剣に教えている姿や、子どもたちが市長や教育長に堂々と意見を述べている姿が素晴らしくて、未来の八王子を託せるなと感じました。子どもたちの遊び場のところで思ったのは、子どもは、大人みたいに行動範囲が広くないので、子どもたちが行ける場所の紹介をお願いしたいと思いました。市長は八王子全体を見る立場の方なので、市のこの場所にあると言うことができますが、

子どもには場所がわからないと思います。子どもにとっては、自分が遊べる範囲の情報が欲しいのではと感じました。もちろん、市として出来ること、出来ないことがあると思いますので、子どもたちがこういう風にしてくれたのだと納得してくれるような、何か目に見えるような結果などがあればと思いました。蛍のことについては、八王子市内で、他にも蛍が飛んでいるところもあるので、蛍マップみたいなものがあれば、喜ぶのではないかと思います。

【井上部会長】そういった蛍や、高尾山に住んでいることで有名なムササビなど、八王子ではここで見る事が出来るという情報発信をするのが大事な事だと思います。では、次の委員の感想をお願いします。

【岡崎委員】子どもの意見というのは、大人とは違う視点であると改めて思いました。地域活動などに子どもたちの意見を持っていくというのは、子どもにやさしいまちづくりの観点からいうと有意義で大切な事だと思います。今回発表してくれた9人は、自らの考えをしっかりと持っている子どもたちですが、もっといろいろな立場の子どもの意見も聞きたいと感じました。

【井上部会長】上手く子どもの意見を吸い上げて、発表などの機会を作るのが大事であると、子ども意見発表会を聞いてみて感じました。

【岡崎委員】一点補足で、子どもたちはもっと遊びたいけれど、なかなか大人が付き合っただけられないのが現状です。今後、大人がどう子どもたちに関わっていくのかが重要ではないかと思いました。

【井上部会長】子どもの課題と同時に、遊べない大人の課題もあると思います。では、次の委員の感想をお願いします。

【中込副部長】遊びにテーマを絞ったのはよかったと思いました。私達は子どもたちの意見を聞いたわけですから、大人の責任として、一歩進めなければいけないですね。ダメだったらこういう訳でダメときちんとした答えをしなくてはいけない。市長や教育長に意見を言ってよかったと子どもたちに思わせないといけないと思います。

【井上部会長】特徴的な公園が八王子市内にうまく散っているわけではないので、そこまでのアクセスをどう確保するのかというのは、八王子の子どもたちにとって重要な課題だと思います。子どもたちが自由に遊べる公園を身近なところで、どう実現してあげられるのかが課題だと思います。

委員のみなさん、感想ありがとうございました。今度は10月16日に子どもたちと我々

で意見交換会を開きますのでよろしくお願いします。

【平塚子どものしあわせ課長】事前に私のほうで担当課長と少しずつ話をしていますが、大きな予算になりそうなものは、担当課長でも答えづらい部分があるので、大きな予算が必要ではないものの中で、実現出来ることについて答えていきたいと思います。

【井上部会長】では、当日どのように進めていきましょうか。皆でワークショップをしながら、八王子にどんな遊び場を作ればいいのかという意見交換をしながら、絵を書いてもらう、ワークショップ型はいかがでしょうか。その中で何が実現できるのか。我々は、プレーパークみたいな構想はありますが、プレーパークそのものが八王子には浸透していないので、遊び場に何が求められているのか。子どもたちにとって、どういう公園が、どういう遊び場がいいのかを含めて、皆と作業しながら理想的な遊び場づくりを考えたいと思います。

【平塚子どものしあわせ課長】子どもたちの意見として、公園そのものの要求が多かったと思います。ただ子どもたちが知らないだけで、子どもたちが思っていたものが、少し離れたところにあったりするので、情報の発信の仕方がポイントになると思いました。プレーパークは難しいとしても、例えば、イベント型であればツリーライミングを行ったとの話もあるので、イベントから入っていけば実現の可能性も出てくるのかなと思いました。課長級の話の中で公園の仕組みを説明したときに、八王子の公園には八王子市の職員を配置しているわけではなく、指定管理者や地域のアドプト制度の方が管理していますので、その現場の人達と意見交換ができれば、解決できることもあるのではないかと思います。

【井上部会長】プレーパークを行うにしても、モデル地域を作って1回やってみないといけないなと思います。八王子はまだプレーパークへの理解がないので、指定管理者などに協力してもらって、試験的に委託をし、プレーリーダーを配置するなど、段階を踏めば出来ると思います。自然を使った遊びには、プレーリーダーたちがいないと無理なので、モデル地域があるといいと思います。また、プレーパークは、建物や倉庫がないと、道具の収納に困ってしまいます。子どもたちの活動は、土日や夏休み・冬休み期間なので、平日が空いてしまいます。例えば、空いた日には保育園や幼稚園の子どもたちに泥んこ遊びをしてもらい、小学校低学年の子どもたちにはビオトープの代わりにプレーパークを使えるような仕組みにしていかないと、土日だけの利用になってしまい、もったいないですね。管理してくれる人がいないと、難しいと思います。プレーパークの件も含めて、子どもたちが何をやりたいのかを、10月16日に聞きたいと思います。

【平塚子どものしあわせ課長】子どもたちが、どこでどうやって遊びたいのか。また、誰と遊ぶのか。その辺の話を八王子の持っている仕組みや、現状の管理などで出来ることがあるのではないかと思います。

【井上部会長】もう1つ聞きたいのは、日常遊べる場所として、どんな所で何をしたいのかということです。八王子の現状として、子どもたちがアクセスできるような公共の場所が少ないと思います。

【平塚子どものしあわせ課長】具体的に新しい施設を造るのは現実的ではないですが、今ある公共施設として、例えば市民センターが子どもたちの遊び場としてなりうるのか、などは大きなテーマになると思います。

【井上部会長】八王子では条例で子どもをどう位置づけるのか。遊びを保障出来ない、いくら条例を制定しても意味がないと思います。ある程度、戦略的に遊びを位置づけることを考えていって、校庭を子どもたちの遊び場として取り戻すなどの意味を持たせた中で、八王子の条例はこうですと持っていかないと、危機的な状況になると思います。遊びは子ども社会を促す重要なものです。子どもに遊びを取り戻すことは、子どもにとってもやさしいし、子どもを育てる親にもやさしいと思うので、条例を考えていく中で、大きな柱となります。極端に言えば、月1回子ども遊びの日を設定するだけでも条例化するという意味は出てくると思います。それを義務化するのではなくて、この日は子ども遊びの日だと、認識が広がっていったときに効果があるのだと思います。

【平塚子どものしあわせ課長】保育園・幼稚園でも泥んこ遊びなどを含めて、遊びを行っています。保育園・幼稚園は遊びが学びなので、遊びがうまく学校の学びに接続するように、保幼小連携というものを八王子は一生懸命やっています。小学校に入ると、学びと遊びが切り離されてしまい、その時に今言った、遊びが保障されなくなってしまう。今の八王子の生涯学習プランは、子どもの頃からの学びというものを行っています。その学びというのは、学校行事の学びとは違う部分があるので、その辺と絡めて行うのも1つのやり方だと思いますし、もう1つは児童福祉の視点からの、遊びの保証というものと2本立てで行っていくのもいいかと思います。学校開放の仕組みなど、かなり学校に絡んでくることが多いので、教育委員会にも入ってもらわないと、実現は難しいと思います。

また、八王子の生涯学習プランの後半になると体験というものがいくつか出てきます。生涯学習の取りまとめたものによると、子どもたちが参加できるプログラムや講座がたくさんあります。どんなプログラムなら魅力を感じるのか。子どもの意見として、八王子に

はどんなプログラムを行って欲しいのか。それを実現していくというのが可能性として一番あると思います。

【井上部会長】では次に、議事2 子どもの権利条例について、説明をお願いします。

議事2 子どもの権利条例について

【平塚子どものしあわせ課長】（資料「ビジョンフォーラムの構成」説明）新しい情報提供で、来年に市制100周年を迎え、市全体の取り組みの中で、一番のメインがビジョンフォーラムとなり、8つのテーマでシンポジウムを開催します。今、庁内で調整をしていますが、8つのテーマの中で何らかの形で、子ども参加・子ども意見をそれぞれのフォーラムで持ってもらい、最後に子どもの未来会議（仮称）みらいフォーラムというのを開催する予定です。今日、話したのは、100周年というのは過去100年を振り返り、今後の100年を考える大きな節目と考え、子どもが次世代を担うことになるので、そういったテーマの中で子どもからの意見を取り入れるという投げかけをするということと、それを踏まえて子どもが意見を述べる、参画するというのが今後の八王子の市制、街づくりについてどういう意味があるのか。それをエンディングでまとめようと思っています。それで皆さんに宿題としてお願いしたいのが、フォーラムとはイメージ的に子どもの意見を聞いてパネラーとして参加するという形態もありますが、必ずしも子どもを舞台にあげることができない事も想定されます。子どもの参加の仕方は色々と思うので、どんな参加の仕方があるのか、皆さんに伺いたいと思います。来年の10月1日に市制100周年の大きな式典があり、これらのフォーラムも夏から秋にかけて行われる予定です。

エンディングのフォーラムは年明けの1月頃に実施する予定です。市制100周年という特別なものになっていく中で、子どもの意見がなんらかの形で反映される。それがまた次につながっていく、そんな投げかけが出来ると思います。

続いて資料提供です。（資料「札幌市子どもの参加ガイドライン」説明）札幌のガイドラインは、地域に向けて出しているもので、学校と地域の連携の具体的な事案が出ているなど、ポイントがまとまっています。また児童館から仕掛けるのではなく、地域が児童館に働きかける事例というの也有っています。市全体でどう取り組んでいくのかといったイメージがあった上で、条例というものはこうやって明確に作られていったのだという、非常に分かりやすい例なので紹介しました。

【井上部会長】札幌は22年前に条例が制定され、子どもの権利という言葉を使っています。川崎や札幌、他に数か所ぐらいでしか、子どもの権利と書いてあるところはありません

ん。しかし、権利と書いてはあるが、あくまで努力規定となっています。我々が条例を考える時、どこまで踏み込むのかというのも、考える必要があると思います。

【平塚子どものしあわせ課長】札幌市のガイドラインは市役所の中だけではなく、地域で啓発していこうという取り組みであり、それは一歩進んだものであると思います。

【井上部会長】市民センターでも子どもたちが取り組もうという動きが出ているので、条例の効果は大きいと思います。

【平塚子どものしあわせ課長】もう一つの資料を説明します。(資料「八王子市NPOマガジン サポート802」説明) この資料は、市民活動の受託団体が行っている、NPOサポート八王子の機関紙になります。先日、市民活動のNPOにヒアリングを受けた中で、子どもにやさしいまち・子ども参画という考え方の話をしたら、非常にその考え方に興味を持っていただきました。

【岡崎委員】サポート802というのは、八王子が設置している市民活動支援センターで、私の所属している八王子市民活動協議会が指定管理しています。市民活動支援センターは市の設置機関で、市民活動の拠点です。その機関紙が、このサポート802になります。市の広報と同じで、市役所が全部チェックしています。機関紙は広報チームが書いています。

【平塚子どものしあわせ課長】子ども参画など、ポイントを的確にとらえたものだったので、紹介しました。

【井上部会長】どの範囲で配られているのですか。広報はちおうじと一緒に配られるのでしょうか。

【岡崎委員】広報はちおうじと一緒にではないですが、市民活動団体に郵送したり市民センターに置いたり、色々な場所に配っています。

【平塚子どものしあわせ課長】9月4日の子どもの意見発表会では、議員の方も見に来たのですが、ある議員さんが一般質問で取り上げてくれまして、せっかくだから、子ども企画提案事業という制度を作れば良いのではないかという大胆な発想で、コメントをいただきました。

【岡崎委員】100周年記念の市民企画事業というのがあり、そこにNPO法人八王子市民活動協議会の「八王子NPOフェスティバル」というのが採択され、来年の5月に予定しています。その中でも多様な担い手というものを考えていて、何か子どもが参画出来るものを取り入れようと企画をしています。

【井上部会長】 行政で進めるのと同時に市民活動でも進めていく必要があると思います。プレーパークにしても市民活動を育てれば、いろんな後押しも出来るし、条例もそこを後押ししてくれれば、実現も早くなると思います。

【平塚子どものしあわせ課長】 子ども会・自治会から情報を発信していくというのも、大事なことだと思います。

【井上部会長】 他に何かございますか。ないようですので、これで閉会します。